

2024年9月15日（聖霊降臨後第17主日、特定19、B年）

牧師メッセージ

「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」

（マルコによる福音書8:27-38）

司祭ヨセフ太田信三

イエスはいよいよご受難とご復活について、弟子たちに打ち明け始めました。しかしイエスの話を聞いたペトロは、イエスを脇へと連れ出し、「いさめ始め」ました。この「いさめる」という単語は、イエスがこのあとペトロを「叱った」という単語と同じです。ですから実際には、ペトロはイエスを叱りつけたのです。自分が信じた救い主は、力強い勝利者でなければならなかったからです。このことは多くのユダヤ人にとってのメシア＝救い主への期待でもありました。ペトロもまた、ユダヤ人の常識や期待、人間の思いに捕われたままだったのです。そのペトロにイエスは厳しい言葉をかけました。

「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」

今日の福音の前半で、ペトロは「あなたは、メシアです」と信仰告白しました。しかし、人間的な思いに捕われ、人間的な栄光を求めるなら、たちまち人はサタンの誘惑の虜になり、イエスを見誤ってしまうのです。サタンの虜になったペトロの目をさますために、イエスは強烈な言葉をかけました。そしてこのイエスの言葉こそ、実はとても深い愛の言葉なのです。「引き下がれ」という言葉は、「わたしの後ろだ」という意味の力強い言葉です。この直訳から、イエスを荒れ野で誘惑した悪魔に対して語られた言葉を思い出す方もいるかも知れません。さらに「私の後ろに」というペトロへの言葉には、「わたしについてきなさい」という、漁師ペトロへの召命の言葉が重なります。イエスと共に歩むべき弟子は、イエスの前ではなく後ろを歩むべき存在なのです。予告と共に受難と復活への歩みを新たにする今、イエスはあらためて神のみ心を阻むサタンを退け、ペトロを召し出したのです。

イエスはさらに言いました。「わたしの後に従いたいものは、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」自分の十字架を背負うとはどういうことでしょうか。ここで言う十字架とは、自分の思いや人間の常識とはかけ離れた、「神の思い」のことです。なぜなら、イエスは神の思いを担って歩まれた先で、十字架にかけられたからです。ですから、十字架を背負うとは、神の思いを背負うということ、神の思いに身を委ねるということです。ならば、神の思いとは何でしょうか。それは、大事な御子の命を差し出すほどにわたしたちを愛しているということです。この愛と祝福こそ、神の思いです。ですから、十字架を背負って生きる、神の思いに生きるとは、神に祝福された者、神に愛された者として生きるということです。さらには、イエスがそうであったように、神の愛された者として他者を認め、互いに神に愛されたものとして愛し合うこと。これが、自分の十字架を背負って生きるということであり、イエスが求めていることです。そのためにこそ、イエスは自らの後ろを歩むようにと命じるのです。自らの思いのままに歩むのではなく、イエスの後ろを歩み、十字架と復活の出来事を目の当たりにする時、私たちは神の思い、神の愛を目の当たりにします。そして、互いにその命懸けの愛に基づいた交わりに生かされる時、まことの平和、幸いが実現します。